

## 緑友20周年を了え、新年度に想う 作道亮雄

昨年は緑友会創立20周年の記念すべき年に当り、春には第20回の名古屋総会、秋には在京6グループ主管の下に20周年記念大会が、緑友会20年の歴史上最大規模の行事として執り行なわれました。それぞれの行事は、主管グループのご尽力、全国緑友のご協力、そして先輩諸兄のお力添えを得、盛会かつ実りあるものとして催せました事は、誠にご同慶であり、各位に対し心から感謝御礼申し上げる次第です。とくに20周年大会の成果の一つとして、北陸の金沢青年印刷人クラブのご入会を得ましたことは、殊の外大きな慶びとする処でございます。

20周年も皆さんのお力で立派に了え、今年は緑友会30年に向っての第一歩を踏み出す年があります。しかし一般状勢は不況誠に深刻です。過去四年間の不況と言われた期間も、今もって考えますと大いにゆとりのあったもので、本年こそまさに我々業界最大の試練であろうかと感じます。

ただ口先で不況だ、苦しい時代だと言っている、誰も援けてくれるものではありません。矢張りそれに打ち克つ努力を人一倍してこそ、生き延びれるものであり、また、新たな繁栄路線に乗れるものかと思えます。

我々緑友仲間、業態も規模も多様ではありますが、共通形態をなす仲間も少なくありません。積極的に緑友に参加される限り、異分野、同分野両方の叡智交換も出来るもので、そのような処にも緑友会20年の歴史を支える存在価値があらうかと思えます。

第20期も、過日の広島セミナーですべての行事が終了出来、皆様に心からお礼申し上げます。第21期は、四月の神奈川総会をスタートとして今年も諸行事が展開されて参りますが、とくに今年は、今の時代に即応したものが望まれるでしょうし、私自身もそれに應えるべき努力をせねば、と強く感じております。そして神奈川総会では、今の時代にあるべき緑友の姿についての活発なご意見を願う次第です。

10月には、緑友会創立以来初の沖縄での第21回全国大会が開催されます。沖縄は、戦前においても戦後においても、そのスタートにハンデを持っておられ、また本土とも遠く離れておられます。その沖縄若潮会の皆さんとの交流は、緑友会の目的とする、同志的結合の意味を結実させる大きなステップをなすものだと思っており、多数のご参集を願う次第です。この一年、私は夢中でやって参りましたが、何とか歩めましたことは、皆さんのご協力ご助言のお陰と心から感謝しており、第21期もより望ましい緑友の姿を求め精一杯努めて参る所存です。

## 第21回 沖縄大会へ多数参加を!!

新春を迎え、緑友会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。常夏の沖縄では、一月末には花見も終り、桜の木も花が散って葉桜に変わって来ましたが、会員皆様の土地ではいかがでしょうか。

さて、私達若潮会員は、ご存じの通り、今秋第21回全国大会のホストを受けました。昨年からは企画と準備に取りかかり、「青い空、青い海、協調と創造を求めて」をテーマに決定させて頂き準備がすすんでおりますが、この度、大会プログラム(案)が出来上がりました。

実際の大会運営内容につきましては、緑友会本部とこれから煮詰めて行く訳ですが、全国緑友会員のご意見、ご要望があればぜひご一報願いたいと存じます。

先日の広島セミナーの席上、12グループですでに140名の参加者を数え、大会締切までには、全国から300名余の参加に達するのでは、と会員一同張切って準備に余念がありません。

30周年へ向けての第一歩として、沖縄大会を実り多き大会にするべく張切っております。

会員皆様一人でも多くお誘い合せの上、ご参加を心からお待ち致しております。

沖縄県青年印刷若潮会  
会長 大城 新 正

### 第21回 全国印刷緑友会 沖縄大会プログラム(案)

- 第1日 10月6日(金)  
バンフィック・ホテル沖縄(那覇市内)
- |      |                        |
|------|------------------------|
| 参加受付 | 12時～13時                |
| 式典   | 13時～14時                |
| 記念講演 | 14時～15時20分<br>(10分休けい) |
| 分科会  | 15時30分～17時             |
| 懇親会  | 17時～19時                |
- 第2日 10月7日(土)
- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 朝食            | 7時30分～8時30分      |
| 分科会報告         | 8時30分～9時10分      |
| 次期大会開催地代表あいさつ | 9時10分～9時15分      |
| 緑友会旗伝達        | 9時15分～9時20分      |
| 観光出発          | 9時40分～14時        |
| 南部戦跡観光(玉泉洞外)  |                  |
| 記念さつえい        | (守礼之門前、那覇市内) 14時 |
- 第二宿泊所  
(ムーンビーチホテル) 15時着 解散
- ◎予備行事として10月8日(日)、那覇カントリーあるいは沖縄国際ゴルフクラブでゴルフ大会を開催の予定。

## 新加入グループ 金沢青年印刷人クラブの紹介

はじめまして!金沢青年印刷人クラブと申します。15年前に発足以来現在会員数26名で、組合とは別組織で若手の印刷人の親睦ならびに研修を目的として、2カ月に1回の例会を開催し、和気あいあいの中自己研鑽に励んでいます。この度全国組織の緑友会に入会させて頂き、一層大きな視野で印刷業の将来を見つめ又考えていきたいと思っています。一応代表世話人は一年交代で自分を鍛えようということになっており、人が代われればやり方も違って来ますし、常

に新鮮な形で取組んでもらえるのではないかと考え、この方法をとっています。

時代の流れと共に、印刷もずい分と変わってまいりました。人一倍の努力がようやくこれまでの状態を維持して行けるような、むずかしい環境です。諸兄の一層のご発展を祈り、ご紹介にかえさせて頂きます。

金沢青年印刷人クラブ  
代表世話人 横 井 勲

## 第2回 グループ長 常任幹事 合同会議議事録

- I、開催日時：昭和52年11月19日  
午後1時～5時
- II、場 所：大阪第一ホテル 6階会議室  
(大阪市北区梅田 大阪マルビル内)
- III、出席者：16グループ26名(オブザーバーを含む)
- IV、議事及び協議経過

- 1、司会 飯田常任幹事
- 2、会長挨拶 作道会長の挨拶要旨次の通り  
今期2回目の合同会議に多数出席頂き、心から御礼申し上げます。先の20周年大会に関しては、ホスト6グループの並々ならぬご努力と、全国からの積極的な参加によって、緑友として誇りうる大会となり、成功をともに喜びたい。  
次の30年へ向けて新しいステップ台に立ったわけだが、これからの一年は、緑友の将来にとって大切なときだと思う。ご協力を得、微力を尽して責任ある職務を担当していきたい。
- 6月の第1回合同会議で、今後この会議を各地持ち回りにし、地元グループの幹事がオブザーバーとして参加し、次の時代をになうこれらの幹事が、緑友会への理解を深め、同時に全国のリーダーとより親しく接触してもらおうと図った。今回はその第1回目にあたる。よろしくご指導をお願いしたい。
- 今日は、金沢の入会承認という嬉しい議題を含め、多くの議題を協議するが、みのりあるものになるようご協力をお願いします。
- 3、自己紹介 東京写真製版若葉会、金沢青年印刷人クラブはこのときは未到着。
- 4、議長選任 司会者指名により渡辺守将常任幹事を議長に選任。
- 5、議 事

- (1) 20周年記念大会報告と緑友20年史遅延の事由

中村守利大会実行委員長が報告にあたる。20年史遅延の事由は(イ)グループ紹介を収載するが、5グループの原稿が未着であること(大阪写真製版、愛媛、佐賀、熊本、沖縄)(ロ)集まった原稿も、グループ別に字数が非常に不ぞろいであること。

このため、未着分の回収を急ぐとともに、一部原稿を差し戻しの上書き直しを求め、来年の横浜総会までには刊行の予定。

なお、記念大会に関する報告要旨は次の通り。

大会が盛況裡に終わったのも、各グループのご支援のお蔭と感謝している。参加者は当初予想の250名を100名もオーバーした。主管する在京グループとしても張合いがあり、予算も大いに助けられた。

緑友会加入28グループのうち25グループが参加、352名が登録した。ゲスト、オブザーバーとして金沢、千葉の両グループ、JC印刷部会、東京青年印刷人協議会の各代表計18名が出席、総員370名に達した。その会費総額は666万円になる。さらに関連業界から今回は協賛広告をとらず"共に喜んでくれないか"という形で大会協賛と参加を呼びかけ、4～50名が参加した。

宿題は大会記録集の作成で、来年早々には出したい。これを出すと予算的にもびったり収まる。

振り返ってみると、大会準備のおかげで、在京6グループが初めて顔合せできた。お互いの名前を知り合い、次第に友情を深め、二年間の協力を通じて東京の仲間がかつてなく緊密に結びついている。今回初めてグループ長会議に出席したプロセス青樹会にしても、準備の途中から自発的に参加、中心的な役割

を果してくれた。その意味で、本当に大会のおかげを頂いたと感謝している。

(2) 新加入グループ承認の件

作道会長が経緯を報告。金沢青年印刷人クラブ（横井勲代表会員 24 名）の加入申込み承認を求め、拍手でこれを承認した。

同クラブ白井秀幸君は次の通り挨拶した。

会員数は 24 名。先々代の石川県印刷工組理事長の肝いりで生れ、当初 14～5 名でスタートしてすでに 10 年になる。最近では懇親が主になって勉強の機会が少なく、前向きになりにくい。やはり全国的なつながりの中で活動したいと考えていたが、たまたま機会を得て 20 周年大会に参加し、会の趣旨を理解し、また意気を感じたのでその場で即座に加入を申し込んだ。事後承諾の形になったが、会の了解もとった。まだまだ、どうおつき合えばいいかわからないが、よろしくご指導をお願いしたい。

(3) 広島セミナー詳細打合せについて

提案者 広島青年印刷研究会 中川 仁君

(イ)日時：昭和 53 年 2 月 4 日 13 時～5 日 12 時 30 分

(ロ)場所：ホテル「ニューヒロデン」

(広島市大須賀町 14～9 0822-63-3456)

(ハ)会費：2 万円（または 1 万 8 千円）

講師によっては予算に大きく影響するため、講師決定まで会費確定を保留。

(ニ)スケジュール（略）

(ホ)講師

地元講師として、広島商業高校野球部畠山部長を予定。

本部推薦の講師 2 名については、作道会長に一任。

(ヘ)準備及び動員

講師の確定次第、12 月 15 日までに案内状を発送。1 月 20 日に申込締切り。期日の関係上、一部講師未定のままでも発送する場合があります。

予算は参加 100 名を見込んで編成しており、目標達成に努めることを申し合わせた。

(ト)申込先

金正印刷(株)内広島青印クラブ

広島市反原新田 18-2 0822-62-2201

(責任者・薬師寺正憲)

(4) 53 年度神奈川総会詳細打合せについて

神奈川正和会 高橋清重君報告

53 年度総会を、4 月 15 日（土）横浜産業貿易センターで開く計画が報告されたが、正和会 20 周年記念行事との併催である点が、時間配分などの面で問題になり、神戸、茨城、仙台などの各代表から、分離開催を求める意見が相次いだ。この結果、参加者に二重の負担をかけまいというホストグループの配慮には感謝しつつも、分離開催を前提として立案再検討を神奈川正和会にお願いした。

(5) 沖縄大会参加について

作道会長 報告提案

現地大城氏からの連絡によると、およそ次のようなスケジュールを立てている。

53 年 10 月 6 日（金）

午後 1 時 開会

大会、分科会

夕方 第 1 回目懇親会（那覇市内）

10 月 7 日（土）

午前中 分科会報告（なければすぐ観光に出発）

午後 島内めぐり

夕方 第 2 回目懇親会（ムーンビーチ）これで大会行事を終る

10 月 8 日（日）

自由行動 海水浴、ゴルフ、ショッピング

このスケジュールに対し、① 2 日目のエクスカージョンは、希望者だけにしてはどうか② 7 日の観光までで大会行事を打ち切り、夜は自由にしてほしい。などの意見が多かった。各クラブの予定をきいたところ、これを機に 4～5 泊の旅行会を計画しているところもあり、（神戸、同友会、神奈川、千代田など）結局こうした意向を大城氏に伝え、再調整することにした。

また、一括購入による航空運賃の割引のた

めの手続や、塔乗集結地などについては、常任委員に付託した。

(6) 緑友会歌歌詞応募状況と写真入り会員名簿について

作道会長 提案

募集中の会歌はまだ応募が全くなく、またその見込みも薄い。このため、今後の処置としては、締切り期限を区切らず、継続的に懸案としておく。改めて応募を求めることはしないということによって了解された。

一方、写真入り名簿については、会場で写真台紙と名簿組版の青焼を配布、来年1月末までに提出を求めた。しかし、現有の組版は氏名配列が順不同であるため、これを50音順に統一することになり、OB分の収録も含め各グループで印字しなおすことになった。これに伴い提出期限は2月末日とした。

(7) JC印刷部会工場見学会へ参加中止の理由報告 作道会長

例年JCの工場見学に参加し交流しているが、今年度は見学日が20周年大会前日の10月7日であったこと、見学先の三浦印刷が見学人員を50名に限定、緑友会の枠は15名に制限されたことなどから、事実上参加はむずかしいと考え、参加を中止した。

(8) 緑友会会則の整備確認

提案 作道会長

すでに決定済みの事項で、会則の上では未処理のままになっているものがあるので、これを整備し確認する。

(イ)「幹事長」を「会長」に修正

第11条、第12条、第13条、第14条、第17条

(ロ)会費「60円」を「100円」に修正

第9条

また作道会長から、今期は採用しなかった副会長制について、「会長の指名により、副会長3名以内をおくことができる」といった形で明文化する必要はないかとの諮問があったのに対し、明文化の必要はないとして現行のままとなった。

さらに、第18条中の「幹事会(代表者会議)」

とグループ長会議との関係について、長倉常任幹事が問題を提起、一時修正の意見も強かったが、結局現行通りに落ち着いた。

(9) その他

提案 作道会長

印刷技術協会の要請もあり、同協会の従業員向け機関誌「プリンターズサークル」の普及に協力することになり、購読申込書を会長の手元に集中し、一括申込んで協力の姿勢を示すことにした。

(10) 54年度の大会、総会、セミナー開催地について

提案 作道会長

標記については結果として次の通り決定した。

(イ)大会 主管：北九州 YP クラブ

(ロ)総会 “：ぎふ翠陽クラブ

(ハ)セミナー “：大阪青年印刷人クラブ

経過は二転三転した。冒頭北九州 YP クラブ白石勝久君より「総会を引受ける」と立候補声明があり、大会については、下馬評の高かった仙台に意向を打診したところ、仙台刷親会佐藤好孝君は「54年開通予定だった新幹線工事が遅れている。54年大会の話は東京大会のとき非公式にきいたが、仙台としては、どうしても「ひかりは北へ」の新幹線開通の年にやりたい。現在56年開通の予定だったが、それまで延ばしてほしい」と固辞した。次の候補の神戸も「57年のポートアイランド完成まで」を理由に辞退、さらに大阪との声もあがったが、作道会長が「北九州に大会を引受けてもらいセミナーは大阪で、総会は岐阜という線はどうか」と再提案。これに対し白石氏は、グループ小人数などを理由に断わったが、大勢はこの案支持に傾き、北九州の渡辺議長しきりに不満の意を態度で表明、議長権限で採決を避けようとしたが遂に避けられず、前記のとおり決定した。

以上で予定の議事をすべて終了。

渡辺君議長席をおり、引続き飯田君司会によって各グループの近況報告に移った。

## 緑友の友情で盛り上った20周年記念大会

実行委員長 中村守利

☆昭和52年10月8日、全国印刷緑友会創立20周年記念大会が、盛会裡にその幕を閉じることが出来ましたことを、心からお礼申し上げます。全国緑友会の皆様のあたたかい友情が、一つの輪になって、多数のご参加をいただいたことが、記念大会を盛会にした最大の原因だと今更のように、緑友の厚い友情に感謝の想いを深くしています。本当に有難うございました。

☆大会運営の盛り上がりだけではなく、大会予算の面でも、今までにない多数のご参加をいただいたことで、予算編成の柱を立てることが出来ました。当初、予算編成につきましては、かなり苦慮いたしましたが、会員参加費を柱とし、不足分は関連業界からの協賛参加を仰ぐことで、収支ピッタリの決算結果を得ることが出来ました。その協賛参加も広告参加の形を排して、分科会・懇親会に実質参加の形をとりましたため、“この会費で帝国ホテルでの緑友記念大会に出席できた”という協賛参加の方からの卒直な喜びの声を聞くことが出来ました。また“緑友会の内容がよく理解出来た”との感想が寄せられ、緑友会を知ってもらう意義があったことに、心からの喜びを感じたことでした。

ただ、予算執行の面では儉約？を旨として、実行委員会では会合の折の食事代は個人負担にし



たり、会場費も出来るだけ支出を少なくする方法をとったりいたしました。また、記念品も王選手の好意を頂戴したりということで、恙なく収支相つくなったことは、まことに幸せでした。☆今度の大会では、従来の大会とは異なり、在京6グループが協同して大会準備をするという、はじめての経験を行いました。そのために、各グループから委員を選出して実行委員会をつくり、お互いの意思の疎通と、それぞれの分担役割りの進行確認を行うために、委員会を頻繁に開くことになりました。おかげ様で、今まであまり直接的につながりがなかったグループ間に、親睦の輪が広がったことは、別の意味で有難いことでした。

☆実行委員会を開くなかで、基本的な意味で最も試行錯誤を重ねた点は、緑友20年の歴史と精神を、どう表現していくかということでした。その意味で、作道会長の挨拶の中で語ることを第1として、歴代幹事長への感謝状贈呈、そして今までの大会とは異なった形で、緑友20年の歩みとスライドを企画いたしました。途中の経過では、いろいろと斬新な案も出ましたが、時間の制約もあり、上記のスタイルをとることが結論になった次第です。

☆記念講演・分科会につきましては、大会記念誌に掲載していますので、あらためてぜひご熟読下さいますようお願いいたします。

☆大会の準備段階から、緑友の全国の先輩よりいろいろな面でのご助言、ご指導をいただきましたことは、本当に心強く有難いことでした。最初に申しあげたことでしたが、記念大会が盛会裡に終わったことは、全国緑友の諸先輩をはじめとした、緑友の皆様の本当にあたたかい友情が、何にもまして大きな力であったことに、しみじみと想いをいたしています。今後の緑友の歩みに一層の栄光をと祈念してやみません。

## 行事報告II

# 第10回 広島セミナー

## 広島県印刷青年研究会



と き 昭和53年2月4日(土)・5日(日)  
ところ ホテル・ニューヒロデン  
(広島市大須賀町 14-9)

### 〈参加グループ〉

○茨城緑友会 ○仙台刷親会 ○長野青年印刷人緑友会 ○大阪青年印刷人クラブ ○神奈川正和会 ○北九州 Y. P. クラブ ○ぎふ印刷翠陽クラブ ○千代田印刷人新世会 ○文京緑友会 ○沖縄県青年印刷若潮会 ○下関青年印刷人緑友会 ○神戸印刷若人会 ○名古屋而立会 ○福岡印刷若葉会 ○印刷同友会 ○久留米印刷緑友会 ○東京プロセス製版青樹会 ○佐世保印刷若汐会 ○日本青年会議所印刷部会 ○広島青年印刷研究会

### 〈講師及びテーマ〉

○鈴木 博先生(東海大助教授)  
「これからの経営環境と経営体質づくり」  
○川本 貢先生(積水化成工業㈱専務)  
「心の経営実践の道」  
○畠山圭司先生(広島商業高校野球部長)  
「経営管理と広商野球」

第10回全国緑友会セミナーは、北は仙台から南は沖縄まで全国各地から20グループ、約90名の参加をいただき、2月5日成功裡に終了することができたこと、ホストグループとして厚く御礼申し上げる。

セミナーは 国歌斉唱 綱領唱和 グループ

紹介 歓迎の辞 会長あいさつ と続き第1講演(鈴木先生)へと進み、広島ならではの原爆慰霊碑参拝、献花を行い、夜は恒例の懇親会で第1日目を終了。第2日目は第2(川本先生)第3(畠山先生)の講演を午前中に続けて拝聴し正午過ぎ閉会した。

広島としては全力投球したつもりであったが、緑友会加盟1年そこそこで様子もわからず、不行届の点多々あったと思うが、どうかその点は友情をもってお許しの程。

### 以下講演について

○第1講座(鈴木先生)先生のバイタリティー豊かな話に全員が引きこまれ1時間45分が短かく感じられた。現在の経済分析から始まり、これからを「精成長」と呼ばれるきめ細かい心くばりで切り抜ける様、又体質強化を常に頭において事業活動をすべきである。ドルショック以前は幻であり「事態」に即応できる体質をつくり「入魂」「精魂」こそがこれからの「社会体系社会」における真剣勝負である。

○第2講座(川本先生)自分の過去から現在までの経験から色々と実例をまじえて温い内容であった。二百数十年前の松田藩恩田李拔擢の話、又、氏の現在の会社の事例「経営審議会」「90%経営」等を引き合いに能力主義が大切であるがドライでむつかしい問題である。公正に評価することが大切であり誰が評価を下すかが一番問題であり心すべきである。

○第3講座(畠山先生)伝統ある広島商業高校野球部長としての15年の経験を通してスポーツマンらしい活気あふれる話であった。愛情ある指導が信頼を呼び、ゲームの中で素直に行動に移せるものである。平素から真剣に取り組みゆるぎない平常心こそ実力発揮につながるのである。又野球でも経営でもリズム感をもって当り組織を固めあらゆる場面に対処しなければならない。

# 緑友OB会前夜祭

市村道徳

緑友会が創立以来20年を迎えるにあたり、その記念大会を開催されるということ、特に創立以来の関係者にとっては、まことに感慨深く大きな喜びでした。

大会前夜の夕、千代田区神田明神下の料亭「花家」へ緑友のOBは三々五々、心はずませながら集まってきました。北からは仙台、長野、水戸、東京そして名古屋、岐阜、大阪、南は福岡、久留米、熊本と。在京の印刷同友会、写真製版若葉会、文京緑友会、千代田印刷新世会からは現役役員も参加して、役員OBを迎えました。創立以来の有力な仲間の神戸、横浜は、それぞれ「公」の会合のため大会には出席するが、前夜OB大会には参加出来ないということで残念でした。しかし一方、どうしても止むを得ない用件のため大会には出席出来ないが、なんとかしてもOB会には参加しようと意気込んで、久留米の三沢さん、長野の竹内さん、水戸の墳本さんはそれぞれ航空機、特急列車などで、日帰りのトンボ返りをされながらも参加して下さったことは、ほんとうに有難く嬉しいことでした。

20年の歳月の中に育かれた緑友の仲間の気持は、何時会っても同じように温かさが通じ合い、中には10年以上も会っていない人たちも、やあやあという中に思い出と懐しさが蘇ってきて、友情の絆が一層深く結ばれてくるのでした。当時、皆それぞれが緑友の総会、大会、ゼミなどの主催者として、苦勞し活躍した

その時々の方が話題となって話は尽きません。現在、OBの仲間は地域の業界にあって第一線で活動されていますが、緑友という共通の場にあっては、互いに旧情を温かめ励まし合い、さらに将来の志向を語り、また後に続く若い仲間の精進に感謝し期待し、緑友のますます発展することを希っているのです。

明日は20周年記念大会。それは激しいゆれ動きの時代の中で、より確かな未来思考を確立しようとして「情報社会における未来思考」という大会テーマと取組んで、緑友20年の歴史を刻む現役の皆さんの心を心として、その前夜、曾ての役員であったOB仲間が、中秋の宵を喜び語り合う楽しい夕の一ときでもありました。そしてせめて1年に1回は催したいというのが参加者の希いでした。

写真・後列左から 小林直（同友会）大河内信行（名古屋）栗原浩（同友会）三沢満（久留米）竹内茂雄（長野）丸谷慶二郎（仙台）和田豊（文京）白橋達夫（同友会）鈴木嘉男（文京）筒井尚亮（千代田）、中列左から 若山晃一（岐阜）大隈瑞茂（福岡）高橋茂（同友会）安達秀雄（同友会）末若直司（福岡）山本義治（同友会）中村守利（同友会）、前列左から 澤田巳之助（同友会）墳本喜久蔵（茨城）皆川忠次郎（仙台）作道亮雄（大阪）市村道徳（同友会）白石豊（熊本）小堀正三（若葉会）土井庄一郎（同友会）宮城荘三郎（大阪）

